

5. 熊本の漱石 4年3カ月の熊本生活



◆ 1896年(明治29)(漱石29歳)

- 4月13日 松山の伊予尋常中学校退職後、菅虎雄の斡旋で、熊本の第五高等学校講師に就任。上熊本駅に降り立つ。
- 5月10日 最初の家(光琳寺)に住う。
- 6月9日 貴族院書記長中根重一の長女、鏡子(19才)と結婚。
- 7月9日 五高の教授に昇格。寺田寅彦が高知より来熊。五高へ入学。
- 9月初め 夫人と一緒に九州各地を旅行。
- 9月20日 2番目の家(合羽町)に転居。
- 10月 「竜南会雑誌」(五高交友会誌)に「人生」を載せる。

◆ 1897年(明治30)(漱石30歳)

- 1月 熊本で初めての新年を祝うが、漱石年始客の多さにこりる。
- 4月10日 友人山川信次郎が五高に赴任、漱石宅に下宿。正岡子規に「教師をやめて文学的な生活をおくりたい」という手紙を送る。
- 6月29日 実父直克死去の電報が届くが、学期末試験の為すぐに帰郷しない。
- 7月4日 妻を連れて上京。病床の子規を見舞う。
- 7月か8月 東京で鏡子夫人流産。
- 9月 鏡子夫人を中根家に預けたまま、漱石熊本へ。
- 9月10日 3番目の家(大江)に転居。

- 10月10日 五高の開校十周年記念日に教員総代として祝辞を読む。
- 10月25日 鏡子夫人、熊本へ帰る。
- 12月 9日 天草・島原方面へ修学旅行。
- 12月27日頃 山川信次郎と共に**小天温泉**へ出かける。
(この旅から「**草枕**」が生まれる)

◆ 1898 年(明治 31)(漱石 31 歳)

- 1月3日か4日頃 小天温泉より帰る。
- 1月18日 山川信次郎と連名で、**小天温泉場前田様宛**、礼状を出す。
「拝啓先日は兩人にてまかり出種々御厄介に相成御礼申上候
今回は見事なる蜜柑併びに茸わざわざ御恵送にあづかり
奉万謝候先は右口上迄早々如斯に御座候也 頓首」

正月十八日 夏目金之助 山川信次郎

- 3月か4月 4番目の家(井川淵)に転居。
- 6月か7月 この頃、鏡子は白川井川淵に投身自殺をはかるが、助けられる。
- 7月 5番目の家(内坪井)に転居。
- 8月か9月 山川信次郎らと5人で小天温泉旅行。漱石は日帰りのため、岩戸
観音まで卓が随行し、見送る。
- 9月 寺田寅彦らに俳句を教え、運座を開く。
- 10月 五高の生徒たちが、俳句の「紫溟吟社」を結成。
- 11月 9日 五高の評議員を命ぜられる。

11月11日 山鹿方面へ修学旅行。

◆ 1899年(明治32)(漱石32歳)

4月頃まで 長尾雨山に漢詩の添削を乞う。

5月 長女、筆子誕生。

6月 8日 高等官五等を命ぜられる。

6月21日 英語科主任を命ぜられる。

9月初め 山川信次郎と阿蘇中岳に登る。

(この旅から「二百十日」が生まれる。)

9月 山川信次郎、第一高等学校教授に就任の為、熊本を離れる。

◆ 1900年(明治33)(漱石33歳)

1月16日 上京、子規庵で浅井忠の送別会を行なう。

3月か4月 6番目の家(北千反畑町)に転居。

4月24日 教頭心得を命ぜられる。

5月12日 文部省第1回給費留学生として2年間の英国留学を命ぜられる。

7月20日 鏡子と筆子を連れて、洪水直後の熊本を去る。

資料／草枕温泉てんすい展示ホールから

6. 漱石 年表

(日付は 1872 年までは旧暦)

- 1867 年(慶応 3 年)1 月 5 日

江戸牛込馬場下横町(現・東京都新宿区喜久井町)に父・夏目小兵衛直克、母・千枝の五男として生まれる。夏目家は代々名主であったが、当時家運が衰えていたので、生後間もなく四谷の古道具屋に里子に出されるが、すぐに連れ戻される。

- 1868 年(明治元年) - 11 月

新宿の名主・塩原昌之助の養子となり、塩原姓を名乗る。

- 1870 年(明治 3 年)

種痘がもとで疱瘡を病み、顔にあばたが残る。

「一つ夏目の鬼瓦」という数え歌に作られるほど、痘痕は目立った。

- 1876 年(明治 9 年)

養母が塩原家を離縁され、塩原家在籍のまま養母とともに生家に移った。

市ヶ谷柳町市ヶ谷学校(現・新宿区立愛日小学校)に転校。

- 1879 年(明治 12 年) 12 歳

東京府第一中学校正則科(東京都立日比谷高等学校の前身)第七級に入学。

- 1881 年(明治 14 年) - 1 月

実母・千枝死去。府立一中を中退。私立二松學舎(現・二松學舎大学)に転校。

- 1883 年(明治 16 年) - 9 月 - 神田駿河台の成立学舎に入学。

➤ 1884年(明治17年) - 9月

大学予備門(明治19年(1886年)に第一高等中学校に名称変更)予科入学。

➤ 1886年(明治19年) - 7月

腹膜炎のため落第。この落第が転機となり、のち卒業まで首席を通す。中村是公と本所江東義塾の教師となり、塾の寄宿舍に転居。

➤ 1887年(明治20年) 20歳

3月に長兄・大助、6月に次兄・栄之助が共に肺病のため死去。急性トラホームを病む。

➤ 1888年(明治21年)

1月 - 塩原家より復籍し、夏目姓に戻る。

7月 - 第一高等中学校予科を卒業。

9月 - 英文学専攻を決意し本科一部に入学。

➤ 1889年(明治22年) - 1月

正岡子規(明治35年9月没)との親交が始まる。

➤ 1890年(明治23年)

7月 - 第一高等中学校本科を卒業。

9月 - 帝国大学(後の東京帝国大学)文科大学英文科入学。文部省の貸費生となる。

➤ 1893年(明治26年) 26歳

7月 - 帝国大学卒業、大学院に入学。

10月 - 高等師範学校(後の東京高等師範学校)の英語教師に。校長嘉納治五郎。

- 1895年(明治28年) - 4月
松山中学(愛媛県立松山東高等学校の前身)に菅虎雄の口添えで赴任。
- 1896年(明治29年) 29歳
4月 - 熊本県の第五高等学校講師となる。
6月 - 貴族院書記官長・中根重一の長女・中根鏡子と結婚。
- 1897年(明治30年) - 6月 - 実父・直克死去。
- 1898年(明治31年) - 10月 - 俳句結社紫溟吟社の主宰に
- 1899年(明治32年) - 5月 - 長女・筆子誕生。
- 1900年(明治33年) - 5月 - イギリスに留学(途上でパリ万国博覧会を訪問)。
- 1903年(明治36年)
4月 - 第一高等学校講師になり、東京帝国大学文科大学講師を兼任。
10月 - 三女・栄子誕生。水彩画を始め、書もよくした。
- 1905年(明治38年)
1月 - 「吾輩は猫である」を『ホトギス』に発表(翌年8月まで断続連載)。
12月 - 四女・愛子誕生。
- 1906年(明治39年) - 4月 - 「坊っちゃん」を『ホトギス』に発表。
- 1907年(明治40年)
1月 - 「野分」を『ホトギス』に発表。
4月 - 一切の教職を辞し、朝日新聞社に入社。
6月 - 長男・純一誕生。「虞美人草」を朝日新聞に連載(-10月)。

➤ 1908 年(明治 41 年) 41 歳

1-4 月「坑夫」、6 月「文鳥」、7-8 月「夢十夜」、9-12 月「三四郎」を朝日新聞に連載。

12 月 - 次男・伸六誕生。

➤ 1910 年(明治 43 年)

3 月 - 五女・雛子誕生。

8 月 - 療養のため修善寺温泉に転地。同月 24 日夜大吐血があり、一時危篤状態に。

➤ 1911 年(明治 44 年)

2 月 21 日 - 文部省からの文学博士号授与を辞退。

8 月 - 朝日新聞社主催の講演会のため関西に行き、大阪で胃潰瘍再発。

➤ 1913 年(大正 2 年)

1 月 - 酷いノイローゼが再発。

3 月 - 胃潰瘍再発。5 月下旬まで自宅で病臥。北海道から東京に転籍。

➤ 1915 年(大正 4 年)- 6 月 - 「道草」を朝日新聞に連載(- 9 月)。

➤ 1916 年(大正 5 年) 49 歳

1 月 - リューマチスの治療のため、湯ヶ原天野屋の中村是公のもとに転地。

5 月 - 「明暗」を朝日新聞に連載(- 12 月)。

12 月 9 日 - 午後 7 時前に、胃潰瘍により死去。戒名・文献院古道漱石居士。

出展/ウィキペディア

